

2022年度9月入学
大阪経済大学 大学院

人間科学研究科 人間共生専攻 修士課程

研究指導担当者一覧

【出願にあたっての注意事項】

- ◎出願の際は必ず、本学入試情報サイト(<https://www.osaka-ue.ac.jp/entrance/admissions/graduate/>)で最新の情報を確認した上で志望する教員名を願書に記入してください。
※担当教員は、変更になることがあります。
- ◎志望する指導教員を願書の「指導教員名」の第1志望欄に記入してください。
第1志望と同一コースの指導教員の中から、第2志望・第3志望の指導教員を選択することができます。ただし、第2志望・第3志望でも入学する意思のある場合に限りです。

【お知らせ】

- ◎教員との個別面談を希望する場合は、上記本学入試情報サイトよりお申し込みください。
- ◎2022年度のシラバス、授業科目、時間割は、本学WEBサイト大学院紹介ページ(<https://www.osaka-ue.ac.jp/education/graduate/>)から閲覧できます。

担当教員	相原 正道
コース	スポーツ健康
テーマ	スポーツマネジメント
担当科目	スポーツマネジメント特論
受講についての必要な予備知識	スポーツマネジメントに関する基本的な知識を有することが望ましい。
評価の方法	研究への取り組み、プレゼンテーション、研究論文の内容による評価。
研究指導について	M1においては、基礎的な文献の購読、関連文献のレビュー、研究計画の策定を行う。M2においては、各自の研究テーマに沿って修士論文の作成指導を行う。
志願者へのメッセージ	国際的な視点と地域における視点を併せ持つことを常に念頭において研究に取り組んでもらいたい。

担当教員	明石 光史
コース	スポーツ健康
テーマ	競技スポーツにおけるコーチングやトレーニング手法に関する研究
担当科目	コーチング科学特論
受講についての必要な予備知識	スポーツ科学全般において理解しておくことが望ましい。また、自身の専門競技についての知識も理解しておくこと。
評価の方法	学外での研究発表、及び、修士論文によって評価する。
研究指導について	コーチング現場から浮かび上がる問題点や、強豪チーム、優秀選手などを分析し、新たなコーチング知見を導き出していく。その研究手法は、測定、分析によって得られる客観的なものと、研究対象者から得られる語りなどの主観的なものを用いる。また、トレーニング手法の構築に関しても測定評価を基に研究していく。
志願者へのメッセージ	コーチングやトレーニングの研究は、いかにコーチング現場へ生かされた成果がもたらされるかどうかにより集約されます。従って、コーチングの現場を持っていることを強く望みます。

担当教員	江藤 幹
コース	スポーツ健康
テーマ	人の健康づくりや健康支援をテーマとする。これらに関わる事柄について（食習慣、身体活動・運動、子ども、高齢者、肥満者、大学生、栄養学、心理学、生理学など）研究対象とする。
担当科目	身体測定評価学特論
受講についての必要な予備知識	スポーツ健康科学分野に関する基礎知識を身につけておくことが望ましい。
評価の方法	学会(学外)での研究発表、および修士論文で評価する。
研究指導について	研究的視点、現場の声を双方を大切にしています。M1では現場の声を聞きつつ研究テーマを探しましょう。M2では研究計画を立て、修士論文を進めていきましょう。
志願者へのメッセージ	「健康」、「スポーツ」、「運動」に興味があり、積極的に行動できる方を求めます。また、ヒトを対象に研究を進めるため、人と人との関わりを大切にできる方が望ましいです。

担当教員	北市 記子
コース	メディア社会
テーマ	デジタルメディア時代における新しい表現の可能性
担当科目	映像メディア特論
受講についての必要な予備知識	動画映像・アニメーション・CGなどのデジタルコンテンツ制作、あるいはそれらを複合的に用いた芸術表現について、基礎的な知識および深い関心を持っていることが望ましい。
評価の方法	研究への取り組み、プレゼンテーション、研究論文の内容、による評価
研究指導について	デジタルメディアを表現の基盤とするアートやデザイン、あるいはその周辺領域における様々な動向について、具体的なコンテンツの詳細な分析を行いながら読み解き、今日的な意味を検証する。またそれらの研究のまとめとして、修士論文を作成する。
志願者へのメッセージ	テクノロジーと表現の関係性についてクリティカルな視点で分析を行い、普遍的価値を有する新たな表現手法の発見へと繋げていってください。

担当教員	楠本 秀忠
コース	スポーツ健康
テーマ	主運動前後の動作（W-upやC-down）がパフォーマンスに与える効果の検討並びに野外活動が参加者・スタッフに与える効果を検討する。
担当科目	身体運動学特論
受講についての必要な予備知識	バイオメカニクス、スポーツ生理学、機能解剖学、運動力学、運動学等の基礎知識、野外活動に関する基礎知識
評価の方法	研究計画書（20%）、研究発表（30%）、修士論文（50%）
研究指導について	ミーティングの中で研究のキーワードを見つけ、研究テーマを設定し、その研究計画を企画・立案・実施する中で、研究に必要な知識・技術を指導する。
志願者へのメッセージ	ヒトの動きに興味を持ち、何事にも「メリハリ」を付けて取り組み、知的好奇心の旺盛であることを望みます。

担当教員	弦間 一雄
コース	メディア社会
テーマ	企業戦略とメディア・コミュニケーション
担当科目	広告ブランディング戦略特論
受講についての必要な予備知識	マーケティングと広告に関する基礎的な知識
評価の方法	ゼミナールでのプレゼンテーション、定期的な研究レポート、修士論文への進捗。
研究指導について	M1については、マーケティング・コミュニケーションと企業戦略に関する基礎文献の購読と同時に、広告などのコミュニケーション・デザインの制作とプレゼンテーションの実務的な指導をおこなう。 M2については、各自の研究テーマに沿って修士論文の作成指導をおこなう。
志願者へのメッセージ	担当教員は20年以上の経験を有する広告の実務家教員である。実践的なリカレント教育を望む社会人学生も大いに歓迎する。

担当教員	小松 亜紀子
コース	メディア社会
テーマ	消費者の社会心理に関する研究
担当科目	消費者行動特論
受講についての必要な予備知識	消費者行動、社会調査、統計分析についての基礎知識
評価の方法	ゼミでの研究報告（レポート・発表）、修士論文
研究指導について	【修士1年】研究計画書の検討・修正、既往文献調査 【修士2年】調査実施、修士論文の執筆
志願者へのメッセージ	消費者行動に関連する領域の研究テーマをもち、データ分析に基づく実証的研究を行うことを計画している方に適しています。

担当教員	城 達也
コース	メディア社会
テーマ	メディア社会論をはじめ、社会学一般に関係するテーマで修士論文にむけての研究指導
担当科目	メディア社会学特論
受講についての必要な予備知識	メディア学・社会学についての基本的な知識があるのがのぞましい。
評価の方法	毎回の報告などによる平常点で評価する。
研究指導について	各自の興味関心に基づいて、修士論文のテーマと方法の設定をおこなう。また、関連文献を講読する。
志願者へのメッセージ	joe@osaka-ue.ac.jp

担当教員	高井 逸史
コース	スポーツ健康
テーマ	地域コミュニティの狭小化が進む中、誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていくためには、従来の血縁と地縁、そして”第三のご縁”が不可欠となる。障がいがあっても自分らしく生きるためには何が必要とされるのか、考えていく。
担当科目	高齢者・障がい者ケア特論
受講についての必要な予備知識	「孤立死」「孤独死」の背景を調べておく。
評価の方法	レポート内容と発表内容。
研究指導について	毎週研究室にてテーマに沿った内容を討議する。
志願者へのメッセージ	堺市で住民の健康増進をテーマにまちづくりに参画しています。積極的にフィールドワークに参加し当事者と関わってほしい。

担当教員	田島 良輝
コース	スポーツ健康
テーマ	スポーツクラブのマーケティング
担当科目	スポーツクラブマネジメント特論
受講についての必要な予備知識	マーケティング、経営戦略の基礎知識（学部教科書レベル）※未習得の場合は、M1時に補習を行います
評価の方法	M1 スポーツクラブ（プロor地域）のマーケティング戦略レポート M2 修士論文 より評価
研究指導について	スポーツクラブ（プロor地域）を対象に、M1では①スポーツマーケティングや経営戦略の論文を輪読②マーケティング戦略の策定、M2では、M1の文献理解や問題意識の醸成をもとに研究計画を策定し、修士論文に取り組みます。
志願者へのメッセージ	スポーツクラブという装置が、ソーシャルキャピタルの高いコミュニティを形成し、地域社会に生きる人にとって満足度が高く、コストの低い社会を実現するツールとなりうるのか、共に研究を進めましょう。

担当教員	土居 充夫
コース	メディア社会
テーマ	誰もが幸せに暮らせる社会をデザインする——自助・共助・公助のバランスを考える
担当科目	時事問題特論
受講についての必要な予備知識	人は、様々な分野の知識を駆使して、生きています。生きるということは、専門性、科学性を基礎にしながらも、それを超えた次元の話であって、総合性が問われるのです。従って、皆さんに望むのは、幅広い知識、少なくともそれを求めようという向学心です。具体的には、政治学、社会学、哲学、心理学などの基礎的知識をもってほしいです。
評価の方法	平常の態度やレポートに基づいて評価します。
研究指導について	皆さんが選ぶ修士論文のテーマに依りますが、基本的には、文献講読が中心です。テーマによっては、実地調査のサポートをしたいと思います。
志願者へのメッセージ	研究テーマをいかに決定するかが、重要なポイントになります。大いに悩み、苦しんでください。見返りはきっとあるはずですよ。

担当教員	半田 裕
コース	スポーツ健康
テーマ	国及びスポーツ庁が唱え、新しいスポーツ基本法が目指す、これからのスポーツの新しい価値の創造に向けた、ビジネスサイドからのスポーツ支援を行える人材の育成をテーマとする。
担当科目	スポーツマーケティング特論
受講についての必要な予備知識	5つのスキルを必要とする。① マーケティング ② ロジカルシンキング&ライティング ③ ロジカルプレゼンテーション ④ 英語（TOEIC730点以上） ⑤ コミュニケーション（リーダーシップ）これらの予備知識を持ってください。
評価の方法	最終成果物としてPPT10-15枚のケーススタディの課題解決資料をプレゼンテーションする。その内容を5つの評価基準で判断する。
研究指導について	2011年6月に54年ぶりに日本のスポーツの基本法が改定された、その結果、2019年のラグビーワールドカップ、2021年の東京オリンピックが招聘でき、2015年10月にはスポーツ庁が創設された。大きなスポーツ界の変革が今まさにこの国で始まっている。最も必要とされるリソースの一つが新しいスポーツビジネスの創造ができる人材というリソースである。その人材とはスポーツの持つ価値（放映権、大会の諸権利、選手の肖像権、競技団体やチームの商品化権など）を企業・自治体などの組織のブランド価値の向上と事業数値の向上にどのように活用するかを提案できる人材だ。そこにあるのは一般企業が行う、マーケティング活動が基本にあり、その事業展開の中でそれぞれの組織が必要とするスポーツのアセットの獲得と活用が要となる。講師である私のネスレ、IMG、アディダス、ナイキでの経験をもとに展開される講座内容はすべて現場で得てきた本物の話になる。
志願者へのメッセージ	「スポーツで飯なんか食えるんですか？」は恐竜がいた時代の話である。少なくとも日本以外の国では。私の友人の一人であるピーター・キャニオンはマンチェスターユナイテッドからチェルシーの社長にヘッドハントされた。彼の年収は日本円で2億5千万である。これがグローバルな世界でのスポーツのビジネスがもたらす結果の一現象と言える。私たちにもそのチャンスがある時代が来たわけです。そのために必要なスキルに興味がある人はドアをノックしてください。

担当教員	松田 幸弘
コース	メディア社会
テーマ	産業・組織心理学と社会心理学に関する研究
担当科目	人間関係特論，モチベーション特論
受講についての必要な予備知識	(1) 産業・組織心理学、社会心理学に関する授業レベルの基礎知識 (2) 統計分析、多変量解析に関する基礎的レベルの知識とスキル (3) 英語論文の趣旨を、辞書を使って把握できる程度の基礎的な読解力
評価の方法	課題の遂行度や発表内容、研究の進展度によって評価します。
研究指導について	リーダーシップやモチベーション等の産業・組織心理学領域あるいは対人魅力や援助行動等の社会心理学領域における理論と研究に関する最新の文献を読みながら、自らの研究テーマと仮説を設定し、実験や調査でその妥当性を検討する修士論文を完成できるように指導します。
志願者へのメッセージ	大学院は常に問題意識を持って主体的に学ぶことが求められます。修士論文の完成を目指して積極的に取り組むことを求めます。

担当教員	八尾 武憲
コース	スポーツ健康
テーマ	個人の健康問題から少子高齢化社会、介護負担による生活の破綻、増大する国民医療費などの医療福祉に関する社会問題に至るまで、時事問題を含めてその現状と原因、解決や改善に必要なことを検討する。
担当科目	健康医学特論
受講についての必要な予備知識	政策「健康日本21」について（ http://www.kenkounippon21.gr.jp/ ）、時事問題（WHOホームページ等）
評価の方法	研究に関する中間報告プレゼンテーション（複数回）、および修士論文で評価します。
研究指導について	医療福祉に関する問題の中から関心のあるものを選び、深く掘り下げていきます。理解に必要な正しい医学的知識の習得をサポートし、フリートークや参考文献の呈示、議論を通じて研究を進めていきます。
志願者へのメッセージ	健康や医療福祉問題に関する正しい知識を身につけ、氾濫する情報に惑わされずに論理的な分析力をもつ人材の育成を目指します。

担当教員	若吉 浩二
コース	スポーツ健康
テーマ	競技スポーツのパフォーマンス向上や健康づくりのための運動処方について研究
担当科目	トレーニング科学特論
受講についての必要な予備知識	スポーツ科学に興味があることが大切。特に、トレーニング科学、スポーツ生理学、スポーツバイオメカニクスに興味をもってほしいです。
評価の方法	3回の中間発表（1回目：研究目的について、2回目：研究目的と具体的研究方法、3回目：研究仮説と予備実験結果）と本発表&修士論文より評価します。
研究指導について	難しいことは後回し。興味あることから勉強、そして調査・研究を始めよう。「研究のイロハ」から、担当教員と一緒に勉強していきたいと思います。測定の仕方、評価の仕方、分析の仕方など、基礎から指導したいと思います。
志願者へのメッセージ	大切なことは、「スポーツ科学に興味がある」こと。「どうしたら、速く泳げるのか?」「どうしたら、速く走れるのか?」を、一緒に考え、勉強していきましょう。「考える力」「まとめる力」、そして「伝える力」を身につけ、「つなげる力」を高めていきましょう。